多賀の国の物語3

多賀の杜（もり）の巨人（神）たち

多賀のパワースポット編①

杜の国「多賀」
鈴鹿の山と水が豊かな杜を多賀にもたらしました。
そして、その杜の中に佇む巨木たち。
杜の巨人、いや杜の巨神たち。

多賀は、滋賀県でも有数の巨木たちが暮らす国です。
それだけ、命・成長を育む自然力が豊かなところ。
いや、自然を見守る人達の心の豊かな国だからなのでしょう。

自然と人に見守られ育った巨木達からは、
私たちを元気づけ、勇気づける圧倒的なオーラが放たれています。
巨木に逢い、巨木と対話し、その力を分けていただきましょう。

明日を生きるために。

白山神社の杉

白山神社から御池堂への参道

白山神社の杉

自然の神を護る巨木の鳥居

犬上川の北流を上り詰めたところにある集落が大君ヶ畑(おじがはた)。地名の由来は、峠を越えたところにある東近江市小椋谷の君ヶ畑との繋がりから説明されることがあります。また、元々は、「王子ヶ畑」であり、この王子とは文徳天皇の第一王子である「惟喬親王(これたかしんのう)」に由来するとも言われています。

惟喬親王と言えば「木地師」の祖として仰がれる人物。大君が畑には、“惟喬親王が流浪した際、近臣の菊川左近、藤川右近に伴われ、この地に仮住まいされた”と言う伝説が伝えられるように、木地師の文化が息づいていました。この由来を物語るように、白山神社の傍らには親王を祀る「御池堂」が鎮座しています。

木の神とも繋がり深い白山神社本殿の前に、二本の杉の巨木が屹立しています。計算されたように、本殿の前に立つ杉は、あたかも木の神を護る鳥居のようにも見えます。或いは、並び立つ二本の杉を鳥居に見立てて、ここに本殿を勧請したのかも知れません。杉の鳥居の間から、鈴鹿の山のオーラが注がれるのを感じます。

アクセス）　国道306大君が畑　白山神社前駐車徒歩4分

十二相神社(じゅうにそう)の杉の巨木林

光秀にパワーを与えたかも知れない巨神たち

白山神社から犬上川を下った佐目に鎮座する神社が、十二相神社です。佐目に架かる橋が「両宮橋」。鈴鹿の山向うの伊勢神宮と、その親神を祀る多賀大社とを結ぶ橋であることからこの名前が付きました。

神社に近づくと、圧倒的なパワーが上空から降り注がれるのを感じます。パワーは、本殿の周囲に巨人（神）の群れのように居並ぶ杉の巨木達から、放たれています。とりわけ、本殿の前に立つ四本の杉は太く、四天王のような趣きすら感じさせます。この四本の杉は明らかにカミの宿る「樹」と意識され、幹には独特の注連縄が飾られています。これらの杉の樹齢は600年とも1000年とも言われています。「十二相」という不思議な名前の由来は明確ではありませんが、御祭神が、川の中から出現した少名彦名命(すくなひこなのみこと)であることに由来するとも考えられます。この神は、水の世界、そして太陽の運行（十二ヶ月）を司る薬師如来と同体だからです。

近年、この佐目の地が「明智光秀」の出生地かもしれない、という素敵な資料が紹介され、注目されています。巨木のパワーが光秀を天下取りに駆り立てたのでしょうか。

アクセス　国道306佐目十二相神社鳥居前駐車　徒歩2分

十二相神社

小石丸を呼ぶ木

大瀧神社の小石丸を呼ぶ樹

犬上伝説の由来を語る神木

犬上川が瀧のような激流となって流れ降るところが「大蛇ヶ淵」。そして、この岸に鎮座するのが犬上川の水の神を祀ったと考えられる「大瀧神社」です。江戸時代初めに建立された壮大な本殿の傍らに小さなお社が建っています。これが、近年ペットの守り神として多くの参拝者が訪れる「犬上神社」です。犬上神社には「多賀の国の物語1大瀧神社」で紹介したように、多賀が含まれる犬上郡を拓いた、犬上氏の祖と仰がれる「稲依別王（いなよりわけのおう）」と、王を守ったその愛犬「小石丸」が祀られています。

さて、大瀧神社拝殿の前、大蛇ヶ淵を見おろす崖の上に杉の巨木が一本立っています。注連縄が巻かれ、神の宿る木として大切にお護りされています。横からこの神木を見上げると、不思議なオーラを感じます。太く高い幹、その一番下の太い枝が、あたかも人が両手を広げているように見えます。大蛇ヶ淵の向うにあるのが、大蛇と闘った小石丸も祀っていた犬上神社の「元宮」。この神木は、自分を救ってくれた小石丸を呼ぶ稲依別王の姿に重なります。まさに「小石丸を呼ぶ樹」。ペットとペットを愛する人達へパワーを授ける、希な神木として注目を浴びそうです。

アクセス）　県道226　大瀧神社駐車場　徒歩3分

水神の宿る桂巨木

向之倉（むかいのくら）　井戸神社の桂

犬上川と並び多賀を涵養する芹川。この流れを遡ると、徐々に川底は石灰岩の砂利に覆われ、神秘的な白い輝きを強めて行きます。この美しい芹川に架かる橋を右岸に渡り、急な斜面を少し登ると向之倉の集落に至ります。この集落からやや降った窪地に鎮座しているのが井戸神社です。

井戸神社とはその名の通り水を司る神。そしてこの社殿の前に目を見張るような桂の巨木が立っています。堂々と太い幹は上で十二本の、これも太い幹に枝分かれし、それぞれが天に向い屹立しています。まるで大地から伸びた神の手が、天に向かって何かを訴えているような力を感じます。

よく見ると、桂の木と井戸神社の間に窪地があり、底に水を湛えています。そしてこの水は斜面を流れ降っています。そう、この池は多賀を潤す芹川の水源の一つでもあったのです。水源に感謝し、神を祀る。そしてここに桂の巨木が立つ。この巨木こそ水を司る神そのものなのかも知れません。伝説に依れば、この池には蛇神が住み、池を掃除のために浚える時には、蛇神は、この桂の木の中に一時避難するのだそうです。まさに、この樹は水の神。

アクセス）　地方道17より向之倉集落。徒歩7分（小型車のみ）

井戸神社の桂

井戸神社の桂

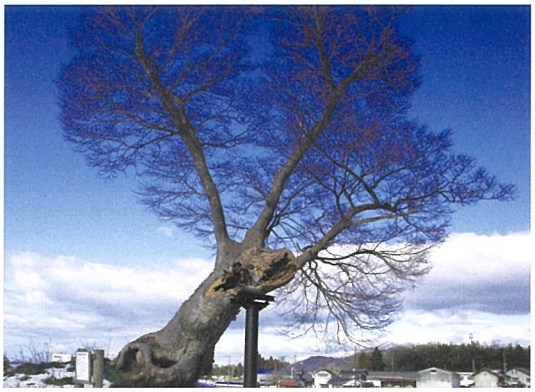
多賀を護る二本の巨木

男飯盛木・女飯盛木

多くの参拝者で賑わう多賀大社。参拝者が様々な願いを書き付け、神様の元に届けるためのアイテムが「絵馬」。通常の絵馬は五角形の駒形をしていますが、多賀大社の絵馬は「杓子」の形をしています。縁起に依りますと“奈良時代のこと、元正天皇が重い病に罹られた。そこで強飯を多賀の「しでの木」で造った杓子で盛って天皇に差し上げたところ、天皇は無事快癒された。この時、杓子を造った余材を地に突き刺したところ、見事な巨木となった。飯を盛った木から育った木なので「飯盛木（いもろぎ）」と呼ばれるようになった。”

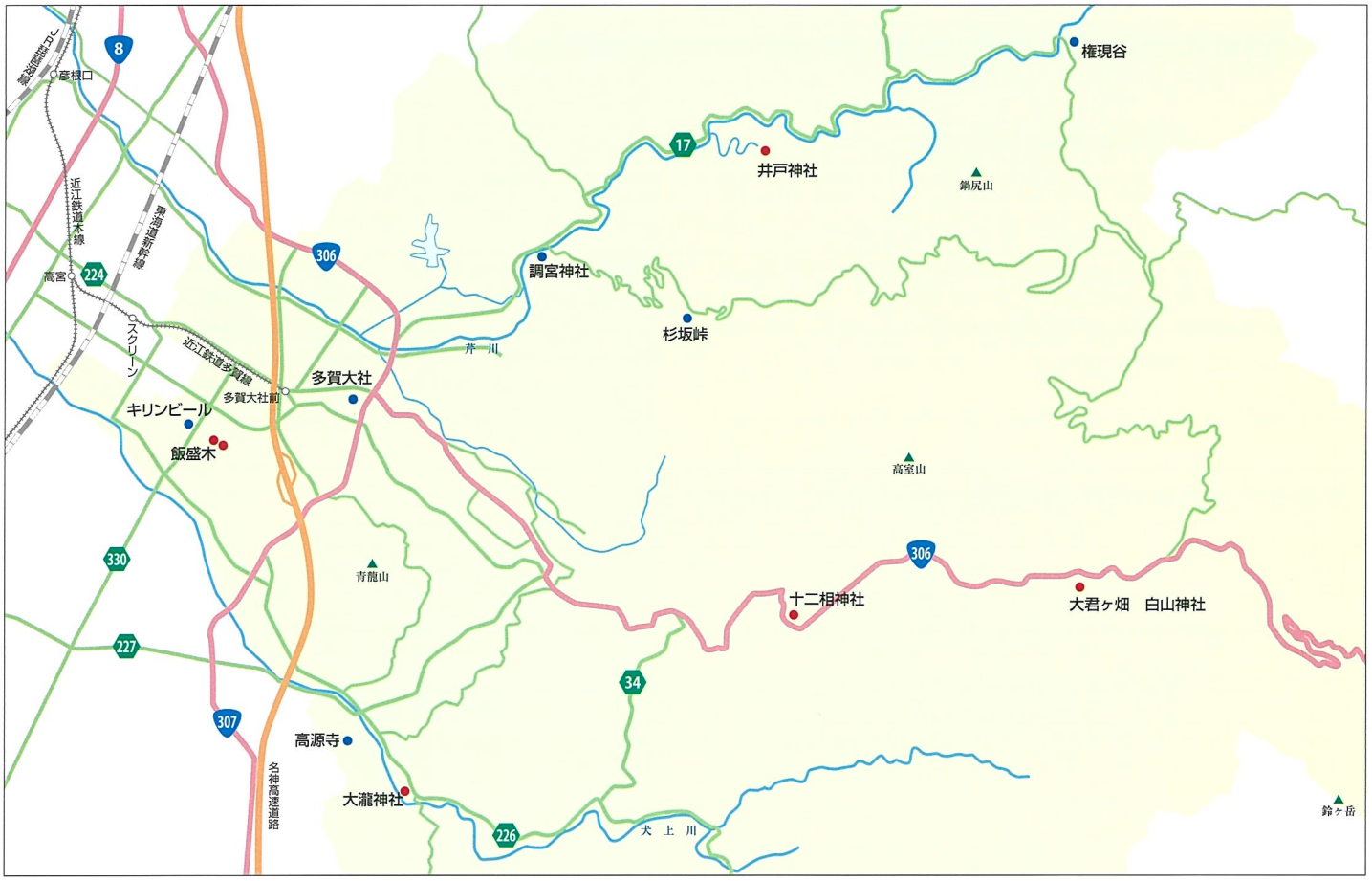
この二本の巨木は飯盛木は、多賀大社にも近い、何遮るものもない田圃（たんぼ）の真ん中に立っており、遠くからでも容易にその姿を確認することができます。何かの意味を込めて植えたものなのか、それとも、原野の中の木が田圃の開発をする中でたまたま残されたものなのかは、もはやわかりません。いずれにしても、田圃の真ん中に立つ巨木に神が宿っていることは容易に感じ取れます。そして、「飯」・「飯を盛る杓子」・「病を癒す」伝説を持つこれらの木、あるいは木に宿る神に「稲作の豊饒」と、ここから生み出される「健康で豊かな暮らし」への願いが込められていることも間違いありません。

アクセス）　県道330　キリンビール工場前から農道（小型車のみ）



男飯盛木

女飯盛木



お問い合わせ　一般社団法人 多賀観光協会　滋賀県犬上郡多賀町大字多賀389-1 TEL 0749-48-1553
発　　行　　多賀町産業観光課
制　　作　　公益財団法人 滋賀県文化財保護協会